秋のラン展　開花株の少ない時期のテーマ展示

上野明楽・磯部実

2023 年 10 月 28 日（土）から 11 月 5 日（日）まで開催された「秋のラン展」の概要について報告する。

展示概要　テーマ

「秋のラン展」は、毎年 10 月末から 11 月初旬にかけて、広島洋蘭倶楽部と日本・蘭協会（ＪＯＳ）西中国支部に協力を依頼し、開催している展示会である。

近年はコロナウイルスへの感染忌避、出品者の高齢化により､出品株数の減少が目立つ。また、秋に開花するランは決まっており、本園はカトレアなどを保有しているものの、ここ数年の酷暑で、以前より開花時期が少しずつ遅れてきているため、このままでは、秋のラン展に展示できる株数が趣味家、当園ともに減少し続けることが予想される。

これらのことから、近い将来の秋のラン展を見越して、今回のテーマ展示はランの花ではなく、草姿に注目し､「食欲の秋」に絡めて､「おいしそうな？ランから学ぼう ランの株姿の不思議」とした。

展示の意図

ラン科植物は専ら花に注目が集まるが、着生、地生、腐生と、生活圏や生態が同じ属の中でも分かれており、植物の生態としても面白いため、花がないのであればいっその事株の説明をしてはどうかと考えたことがこの展示の発端である。具体的には、一株毎に説明文を付け、株を展示することで、花だけではないランの生態的な魅力に気付いてもらうことを目的とした展示を行った。

展示したランは、主に株姿に形態的な特徴があり、野菜や果物に見えるもの、薬用になっているもの、食べることができるものなどであり、花の有無に関わらず展示した。

また、生育する場所によって株姿が異なることから、見た目でわかる栽培のポイントを付けるとともに、自生地を意識した装飾を心がけ、地生、着生などランの生活形態についても掘り下げて説明した。

展示した種類と説明

1.「バナナのような茎」

ミルメコフィラ属の一種 (*Myrmecophilla* sp.)

本属は , ラン科植物の中では珍しく、アリと共生しているアリ植物とされている。また、偽鱗茎（バルブ：偽球茎）が黄色く、バナナに似ていることから、バナナオーキッドと呼ばれることもある。大きなバルブの中は空洞であり、今回は枯れたバルブを輪切りにし、内部の構造を見せる展示を行った。

2.「昆布のような大きい葉」

バルボフィルム　ファレノプシス

（*Bulbophyllum phalaenopsis*）

本種はラン科植物最大級の葉を持ち、波打つような形状と幅の広い葉から、海藻の昆布が連想され、花も非常にインパクトがあるのでいつか開花株を展示したいが、そのためには何が開花のスイッチとなっているのか調べる必要がある。

3.「薬用としても使える」

セッコク、キバナノセッコク

（*Dendrobium moniliforme* .*Den.tosaense*）

どちらも日本に自生するデンドロビウムで、漢方薬として利用されることがあるため , 季節外れに咲いていた一株を含めて 3 株展示した。キバナノセッコクについては、今年度上半期の連続テレビ小説「らんまん」で話題になった牧野富太郎博士が命名したことも考慮した。

4.「マスカットのようなバルブ」

リカステの園芸品種（*Lycaste* cv.）

リカステ属は南米に生育する大型の着生ランで、偽鱗茎（バルブ：偽球茎）が発達し丸くみずみずしく、色合い、形ともにマスカットに似ていることから展示した。本品種は夏から冬にかけて開花するが、10 月後半に咲く株がないことから、花の写真を添付した。

5.「山の幸になることも」

シュンラン（*Cymbidium goeringii*）

日本に自生するラン科植物では、数少ない食用とできるものであり、山の幸である花の天ぷ

らのほか、塩漬けにした花をお茶として楽しむこともある。今回は自生地を再現した展示をした。

6.「もっとも身近なラン科植物？」

バニラ属の一種（*Vanilla* sp.）

本属は大人から子供まで知名度の高い植物であるが、ラン科植物であることはあまり知られていないため、今回は株と果実の展示を行った。

また、花や生の状態の果実には香りがないため、その説明も添付した。

7.「分厚い葉で乾燥に耐える」

ファレノプシス属の一種（*Phalaenopsis* sp.）

本属は、主に贈答用にされることがある。葉が分厚く、野菜に見えることから展示したが、野菜のような葉姿から咲く可憐な花のギャップを楽しんでもらおうという意図で開花している原種を展示した。

所感

バニラやバナナオーキッドなど、視覚や嗅覚などで楽しめるランも展示したことで、大人から子供まで楽しんでもらうことができた。このことから、花の少ない時期でも、ランの形態的特徴があるものを展示することも一つの展示手法であると考えた。特に、近年は花だけでなく、葉の美しさを楽しむ愛好家が一定数増えているため、今後は葉に注目した展示をするのも面白いと思う。これからも、ラン科植物の面白さを伝えていけるような展示を心がけていきたい。

参考文献

熊本大学薬学部薬用植物園 植物データベース https:kumamoto-u.ac.jp

乾陽子 .2016. アリ植物共生系に見られる多種な種間関係の科学生態 . 日本生態学会誌 66:413-416

堀川大輔・藤井智展・濱谷修一 2022.「広島初！アリと生きる植物展の開催」. 広島市植物公園栽培記録 43：37-41

写真１　ミルメコフィラ属　バルボフィルム属の展示

写真２　バニラ属、ファレノプシス属、リカステ属、デンドロビウム属の展示